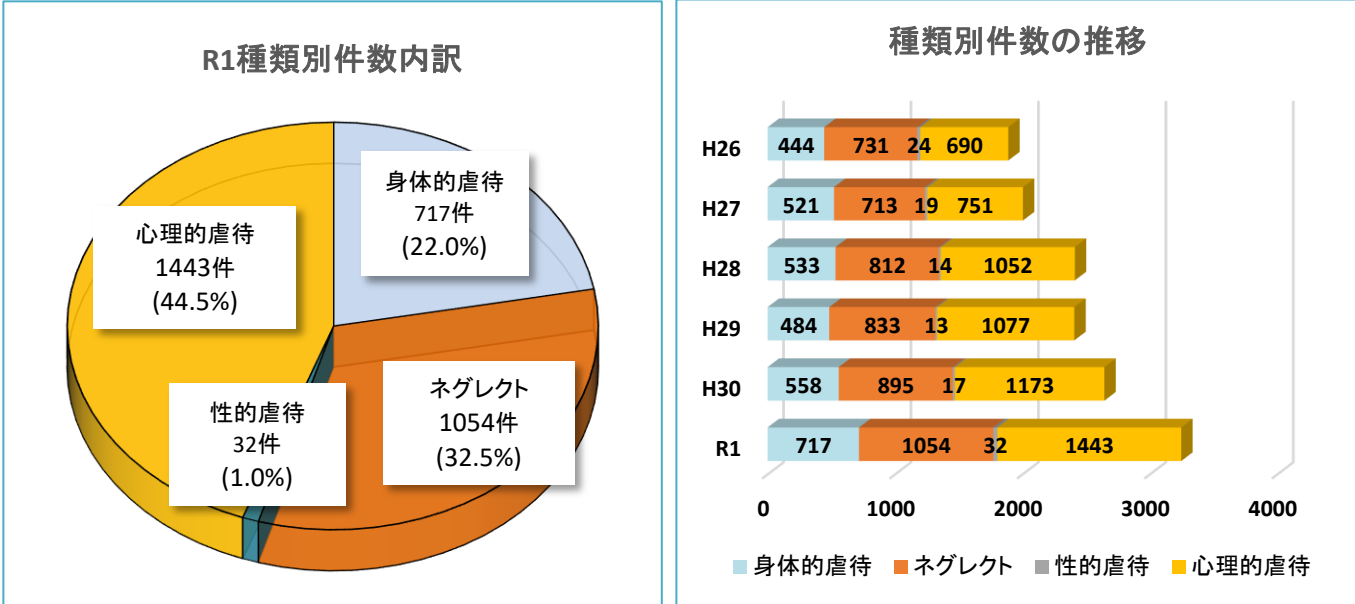
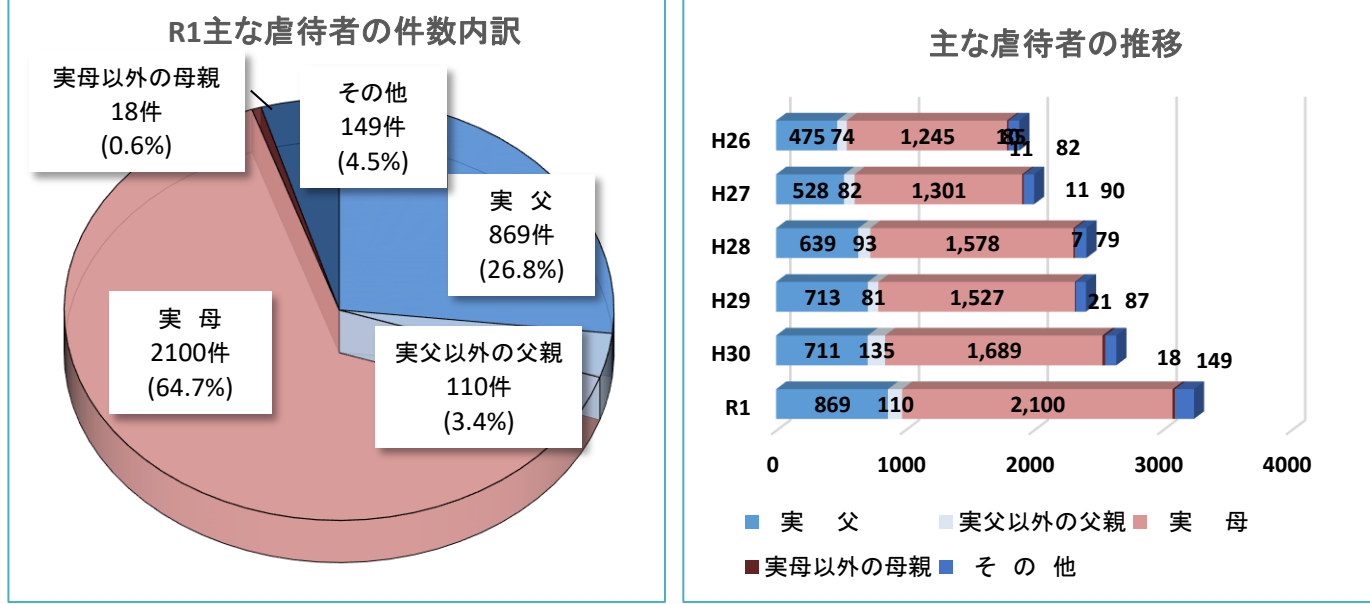


虐待の種類



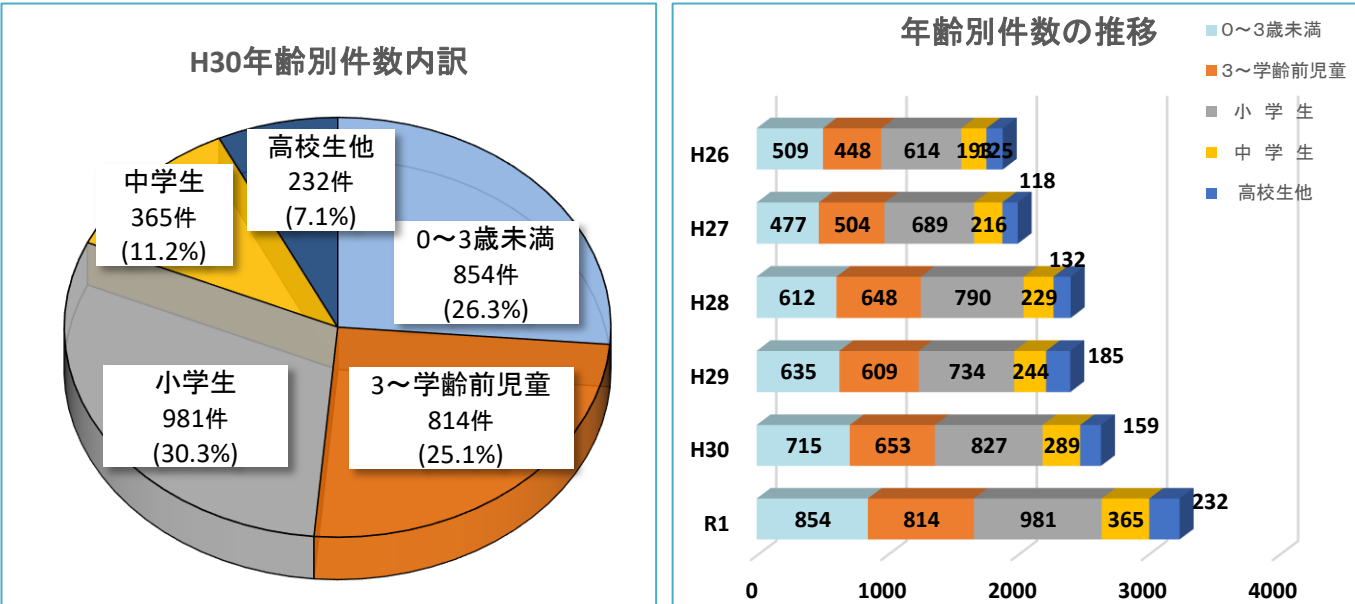
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比べると、すべての種別で増加が見られるが、内訳の割合で比べると前年度とほぼ同様の傾向にある。

主な虐待者



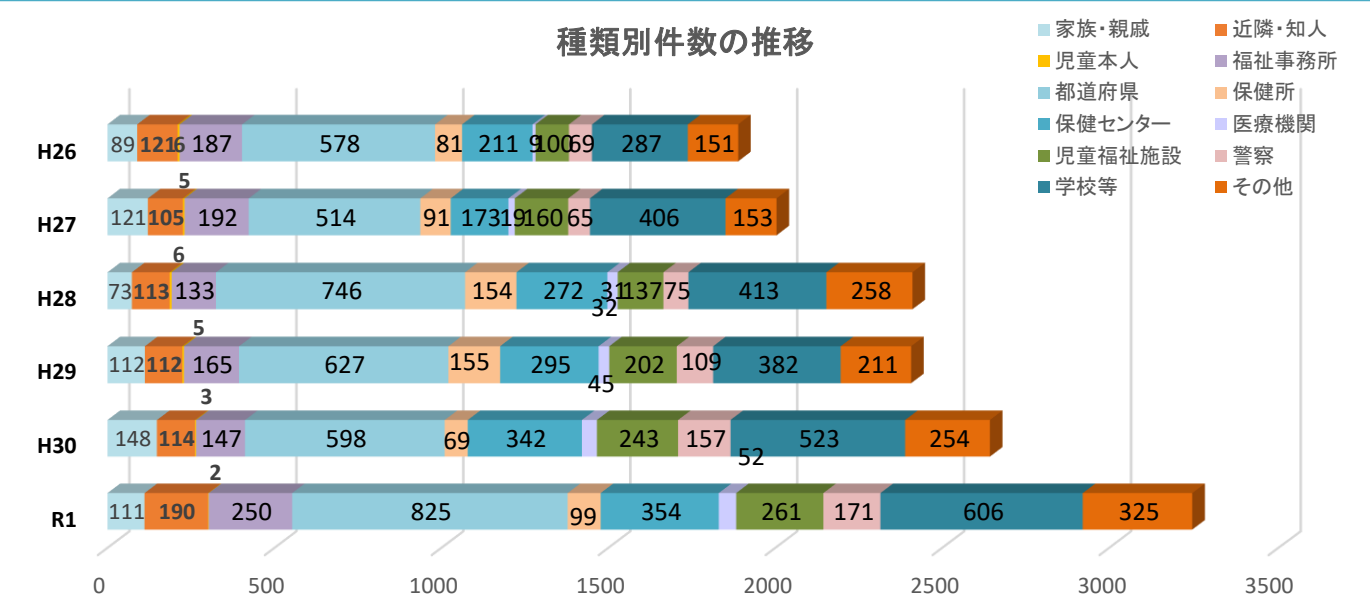
「実母」の割合が最も多く(64.7%)、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の9割を超えている。前年度と比べると「実母」が411件増(24.3%増)、「実父」が158件増(22.2%増)と件数は大幅に増えているが、内訳の割合で比べると前年度とほぼ同様の傾向にある。

被虐待児の年齢



「0歳～就学前」の児童が、全体の約半数(51.4%)を占めており、前年度と同様の傾向が見られる。また前年度と比べると、すべての年代で件数が増加しているが、内訳の割合で比べると前年度と同様の傾向にある。

虐待通告の経路



「都道府県」からの通告が最も多く、次いで「学校等」「保健センター」の順である。前年度と比べると経路「近隣・知人」が76件増(66.7%増)、「都道府県」が227件増(38.0%増)と大幅に増えている。一方で、経路「家族・親戚」は37件減(25.0%減)と減少している。